

「私だって目立ちたい」

河田 篤子



「バレエキャラクター事典」
文・新藤弘子 絵・とよふく まきこ
新書館 2004 請求記号●J103-540

今年春の新人登竜門、ローザンヌバレエコンクールでは日本人3人が1位2位6位と上位を占めました。ローザンヌは、上位入賞すると希望するバレエ学校に留学することが認められるので、練習環境を求める日本人が多く参加するようです。過去にはKバレエカンパニー芸術監督の熊川哲也さん、長くイギリスで活躍し日本に戻られた吉田都さん、東京バレエ団の上野水香さんなどがあげられます。御三方は素晴らしいダンサーとなり、日本におけるローザンヌコンクールの価値を高めました。最近では2年前に菅井円加さんがやはり一位になりましたね。彼女もバレエ学校に留学し今後の成長が楽しみです。

また5月にはすでに活躍しているバレエダンサー向けのコンクール、ブノワ賞を木田真理子さんが日本人で初めて受賞。彼女もローザンヌ入賞者です。その後7月にアメリカ・ミシシッピ州で行われたジャクソン国際コンクールで金賞銀賞を受賞したのも日本人の女性プログラマーです。このように今日本人は、国際的にバレエ界で活躍しています。

日本人がはじめて国際バレエコンクールで優勝したのは40年前でしようか。1972年のヴァルナ国際コンクールで森下洋子さんが一位となり一躍時の人でした。体格が見劣りする日本人が、バレエという容姿が前面に出てしまう舞踏で、西洋人に勝てるなんて、全く考えられなかったからです。森下さんは少女の頃、毎月少女雑誌のグラビアを飾っていたので、憧れていた私は同じポーズを真似たものでした。

新聞などで日本人の活躍を読んだ、ちよつとバレエに興味を持つた方、興味があるけどバレエなんてよく知らないと思っている方、あなた方に紹介したい本があります。ほんとの入門用で知識がゼロからでも大丈夫。あなたにぴったりでしよう？

それは『バレエキャラクター事典』。事典と言っても難しいものではなく、一冊丸ごとカラー頁で絵がいっぱい。最も有名なチャイコフスキーの三大バレエ、「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「くるみ割り人形」はじめ、「ジゼル」や「シンデレラ」「ロミオとジュリエット」「ドン・キホーテ」など、内容は知らなくても名前だけは知っているような名作ばかり、13作品紹介されています。作品のあらすじは主役の紹介の中でざつと語られ、主役以外の登場人物がたくさん、それもかなり細かく説明されています。衣装もきちんと描かれているので「あれあれ、あの役。猫の扮装で踊っているやつ」とか「たくさんのリボンを持つて回っているやつ」とか部分的に覚えていても、絵を見ているだけで見つけ出すことが出来ます。役の性格とどんな踊り手が向くなどの解説もあり、より深く楽しむことも出来ますが、なんといつても華やかなバレエの世界を感じられる淡い色調を楽しんで下さい。

バレエにはたくさんのキャラクターが登場します。個性あふれる彼らをお楽しみください。